

似てないだろうか

松浦 純子

2025年1月20日にアメリカ大統領の就任式が行なわれた。第47代大統領は31語の「忠誠の誓い」に従い、アメリカ国民のために頑張るのであろう。

2000年の夏、私は生徒のホームステイの引率でアメリカのコロラド州にいた。11月初めの大統領選挙において共和党のG.ブッシュ・テキサス州知事と民主党のゴア副大統領が終盤の激しい争いをしていった。生徒のホストファミリーたちの関心も高く、選挙権のない私にまで、「あなたは民主党と共和党のどちらを支持するか」と聞かれたものだ。結局この選挙は共和党が勝ったが大接戦で、最終的に勝者が決まるまでにひと月を要した。

さて、「1月20日は独裁者になる」と言っていた大統領の就任演説を聞いて、「？」と思ったことがある。”one people, one family, one nation “ このことばは、”ein Volk, ein Reich, ein Führer” に似てないだろうか。英語に直せば、”one people, one nation/empire, one leader”である。これは、1934年9月にニュルンベルクで開かれた国家社会主義ドイツ労働者党（ナチ党）の第6回全国大会で語られたことばである。この大会の様子は、記録映画として1935年に公開された。

さらに、映画のタイトルは、”Triumph des Willen” 「意志の勝利」である。タイトルも米大統領の名前に似てないだろうか。TriumphをTrumpと見間違えるくらいの酷似である。

ドイツでは世界恐慌中の1933年1月にナチ党の新首相が任命された。その年から6回にわたりニュルンベルクで党の全国大会が開かれた。ヴァイマル憲法を廃止した33年は「勝利の大会」、34年は上記「意志の勝利」、再軍備宣言をした35年は「自由の大会」、ヴェルサイユ体制を破棄してラインラントに進駐した36年は「名誉の大会」、37年は「労働の大会」、そして同じドイツ民族のオーストリアを併合した38年は「大ドイツの大会」と名付けられた。また同年、総統（34年に大統領が死去し、首相は大統領の権限も兼ねた）はまさかと思っていたズデーテン地方の併合に成功し「強く言えば相手は譲歩し、自分の言うことを聞く」ということを学んだ。あれっ？ これも米大統領に似てないだろうか。

彼はアラスカのデナリを、マッキンリーに戻した。尊敬するマッキンリー大統領に因んだ名称である。この大統領が19世紀末に行ってきた高関税政策、領土割譲要求を真似して毎日世界を驚かせているが、時代錯誤とブーメランにご用心。